

「特別の教科 道徳」に対する教員の意識と取り組み  
—道徳教育に関する全国アンケート調査の結果に基づいて—

範 蘭心（東京学芸大学）、永田 繁雄（東京学芸大学）

### 1. はじめに

道徳の授業が道徳の時間から「特別の教科 道徳」（以下、道徳科）へと位置付け直され、小・中ともに教科書使用による全面実施となって5年を超えた。その間、学校現場では、コロナ禍の不測の事態を超え、様々な変化や新たな課題も生じてきた。そこで本研究は、このような状況下での実施の現状や、教員の意識等を広く把握し、今後の指導の一層の改善・充実等に役立てられるようにすることを目的として実施した。

### 2. 調査方法

■調査手続き 「2023年版全国学校データ（NPO法人 教育ソリューション協会）」の全国学校リストより系統抽出法を用いて抽出された小・中学校、義務教育学校と中等教育学校計3622校を対象として、1校あたり最大7名の教員が回答対象とされた。令和5年12月に依頼状を郵送し、調査協力者にQRコードからGoogle Formにアクセスして回答してもらい、回答期限は令和6年1月の月末までとした。

■調査内容 調査協力者に、①回答者の属性および勤務校状況、②道徳の授業での取組、③道徳の授業について感じていること、④道徳の時間が「特別の教科」である道徳科への変化、⑤道徳の内容（内容項目）について重視したいこと、⑥道徳の授業の充実についての考え、⑦道徳教育全体や道徳科の指導の充実についての考え、について尋ねた。

### 3. 結果・考察

#### ■回答者の属性および勤務校状況

合計1527件の回答が収集でき、担当する学年によって小学校教員と中学校教員に分けたところ、小学校は848名で、中学校は679名であった。

以下、調査の集計結果より、その一部を示し、その回答傾向を検討する。

#### ■道徳の授業における取組

調査協力者が1時間の授業で使用する中心教材の状況について、表1に示した。

小学校の場合、1時間の授業の中心教材に教科書のみ使用する教員が半数以上を占めたが、中学校の場合は教科書以外も使用する教員が半数を超えていた。

また、「1時間の授業の中心教材として、教科書以外も使用することがある」と選択した教員が本年度の調査時点までに用いた教材に関して、学校種別の件数を図1に示した。

表1 1時間の授業で使用する中心教材

	小学校		中学校	
	n	%	n	%
教科書のみ使用	461	54.4%	290	42.7%
教科書以外も使用	387	45.6%	389	57.3%

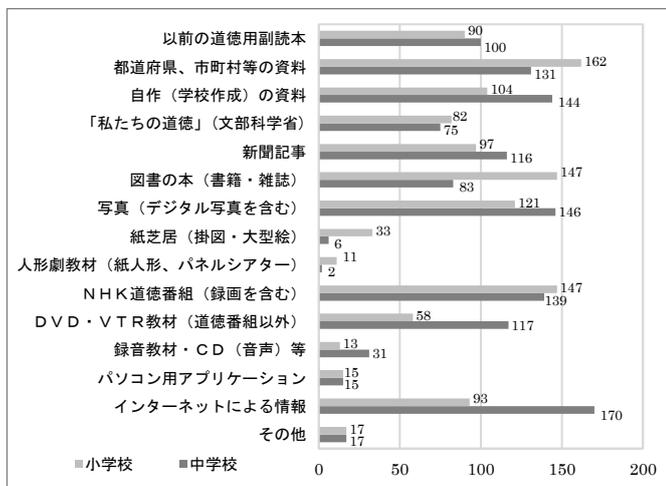


図1 教科書以外使用することがある教材（複数回答可）

## ■道徳の時間が道徳科に変わったことに伴う教員の意識の変化

調査協力者 1527 名のうち、以前の道徳用教科書を使用しない頃の道徳の時間の指導経験がある教員は 907 名であった。その教員が感じる道徳の時間から道徳科への変化の結果を図 2 に示した。

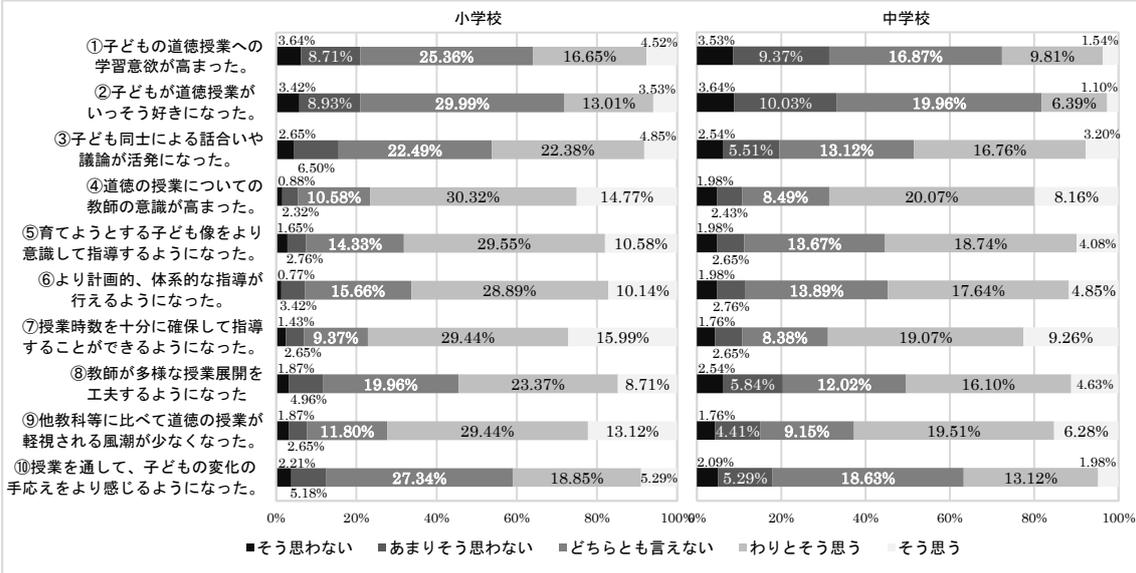


図 2 道徳の時間から「道徳科」への変化について (N=907)

## ■道徳科の指導の充実についての考え

調査協力者が道徳科の質的改善について特に重視したいと考えること (3 つ) と、社会的な課題や子どもの心の成長に関わる課題の中で特に重視したいと考えること (3 つまで) を図 3 と図 4 に示した (これらの回答傾向の特徴は当日の報告の中にて示す)。

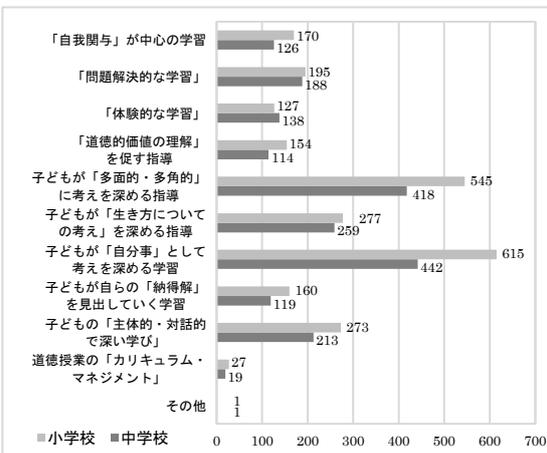


図 3 道徳科の質的改善について特に重視したいと考えること

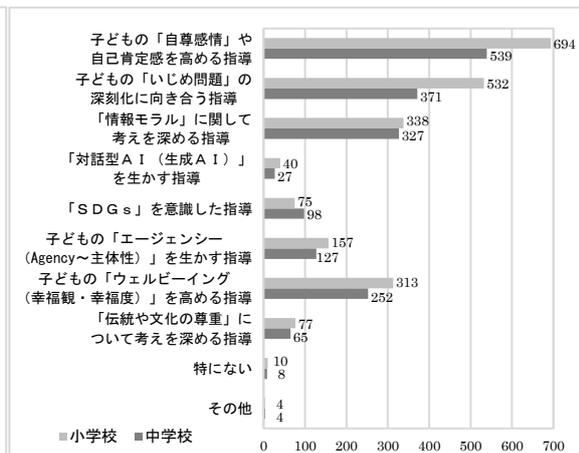


図 4 子どもに関わる課題の中で特に重視したいと考えること

※「道徳の授業について感じていること」「道徳の内容 (内容項目) について重視したいこと」および「道徳教育全体や道徳科の指導の充実についての考え」については、当日資料をご覧ください。

## 4. おわりに

本研究によって、全国の小・中学校段階の教員が道徳科の誕生によって感じる意識や、授業の実施の様子、その改善への期待の方向などが把握できた。今後、さらに重層的な分析を試み、道徳教育の一層の改善の検討に役立つ結果となるよう整理していくこととする。

※本研究は、本学の上廣道徳・倫理教育研究開発推進室における取組の一つです。